

『就実論叢』第45号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2016年2月29日 発行

# 養護教諭養成における健康観察の授業実践の検討

Study of teaching practice of the healthy observation  
in the *Yogo* Teacher's training

鈴木 薫  
岡崎 由美子

# 養護教諭養成における健康観察の授業実践の検討

Study of teaching practice of the healthy observation  
in the Yogo Teacher's training

鈴木 薫 (就実大学)

岡崎 由美子 (就実小学校)

Kaoru SUZUKI

Yumiko OKAZAKI

キーワード 健康観察 授業実践 養護教諭養成 授業評価

Health Observation, Study of teaching, Yogo Teacher's training, Course evaluation

## I. 緒言

学校で行われる健康観察は、日常的に子どもの健康状態を観察し、心身の健康問題を早期に発見して適切な対応を図ることによって、学校における教育活動を円滑に進めるために行われる活動<sup>1)</sup>である。学級担任、養護教諭などが子どもの体調不良や欠席・遅刻などの日常的な心身の健康状態を把握することにより、感染症や心の健康問題などの心身の変化について早期発見・早期対応や、子どもに自他の健康に興味・関心を持たせ、自己管理能力の育成を図ることなどを目的として行い<sup>2)</sup>、その重要性は増してきている。学校保健安全法第9条においても、教職員による健康観察は健康相談とともに、児童生徒の心身の状態の把握や保健指導の起点であることが示されており、芦川<sup>3)</sup>は、担任が行う朝の健康観察から得た情報をもとに保健室において健康相談を実施した事例や、保健室での健康相談や保健指導後に、担任が健康観察を継続して見守った事例から、担任が行う健康観察は教室と保健室を繋ぎ、養護教諭が行う健康相談や保健指導を効果的にすることを報告している。

健康観察に関するこれまでの経緯を概観すると、1949年「中学校保健計画実施要領」<sup>4)</sup>で「常に観察を怠ってはならない」と教師の役割が述べられたことから始まり、1958年「学校保健法および同法施行令等の施行にともなう実施基準について」<sup>5)</sup>においては、伝染病疾患への早期対応策や健康相談対象者の抽出方法としての重要性が示された。また、1972年「保健体育審議会答申」<sup>6)</sup>で、健康観察は一般教員の保健管理実施者としての重要な役割として、体格、性格、健康状態等を総合的に把握したうえで指導を行うことと記述されている。そしてこの間の先行研究としては、担任や養護教諭による実施方法の紹介や課題、医師による問題提起など、論文等により報告がされてきている<sup>7)-15)</sup>。

しかし、日本学校保健会の調査(平成16年)において示された中学校や高校の健康観察の実施率の低さや、養護教諭の健康観察に関わる視点を論述した先行研究が僅少であることな

ど、教育現場における健康観察の実施や活用について解決すべき課題が残されているといえる。

鈴木ら<sup>16)</sup>は入学して間もない大学1年生を対象に、小学校から高校時代の健康観察について調査し、児童生徒側から見た健康観察のイメージに関する結果を報告している。それによると、小学校では「朝の会で」「担任か係が」「一人ずつ名前を呼び体調を尋ねる」形態の経験が多く出されたが、中学校、高校では「健康観察はなかった」「覚えていない」「特定期間のみの実施」という結果であり、先述の学校種による健康観察の実施率の違いを裏付けるものであった。また、学生の健康観察に対するイメージは、感染症の早期発見や対策には有効で「自他の健康の把握」と「体調への配慮」が行いやすくなったり、安心感や感謝の気持ちが育ったりする活動というイメージをもっているものの、小学校中学年以降の年齢になると、クラス全員の前で体調不良を訴えることの困難さや自己申告の信憑性に疑問を感じるなど、発達のニーズやプライバシーに関して問題があるというものであった。そして、朝の限定された時間での活動であり、「出欠確認は教師にとって必要だからするのではないか」「教師が子どもをよく見れば健康状態は分かるはずだ」など、担任の実施方法や健康観察の意義を考えさせられる問題提起をも含んでいた。さらに、健康観察に関わる養護教諭のイメージに関する記述はほとんど見られなかった。

一般的にイメージは価値判断を含み、教師の目的とする活動を直感的に導く働きをするという点で重要性が指摘されている<sup>17)</sup>。また、教員志望学生が明確な実践イメージを持たない場合、現場で求められるままの実践を展開したり、自らの成長を自覚できなかつたりするという問題も確認されている<sup>18)</sup>。とりわけ、これからの学校保健を担う養護教諭の養成段階においては、学生が健康観察の意義や課題を理解することとともに、学校の全教職員で健康観察を推進していくための養護教諭の活動をイメージすることができるような授業内容の工夫が必要になると考える。

そこで本研究では、健康観察や健康観察に関わる養護教諭の役割について理解するために、ロールプレイを取り入れた朝の健康観察場面の体験や、現職養護教諭の実地指導講師による健康観察の現状と養護教諭実践に関する講義、さらに事例を通して健康観察が健康相談や保健指導に展開することを理解するなどの内容を授業に取り入れ、学生の学びを検討することを試みた。

本報では、養護教諭の養成段階で、健康観察の授業において学生の学びを検討した結果について報告する。

## II. 方法

### 1. 対象者・調査方法・時期

2013年10月末から11月にかけて、A大学の「養護学概論Ⅱ」15回（各90分）の授業のうち3回目から6回目のテーマを健康観察として授業を行い、授業の工夫と学生の学びや自己課題

についての記述内容を分析した。分析対象は受講生42名（1年生40名、他2名）であり、全員が養護教諭免許取得希望者であった。調査は4回の授業内の5分間から10分間を用いて記名式で行い、その場で回収した。

## 2. 授業の目標と概要及び形態

養護学概論Ⅱでは、表1の内容を中心に養護教諭の職務を具体的に理解することを目標とした。形態は、養護教諭が活動を推進するために求められる人間関係力の向上を意識し、グループ学習などを取り入れるようにしている。健康観察に関する授業は講義室で行った。4回の授業の目標と概要を以下に示す。

1回目（通算3回目）：目標を、「一日の学校生活を想起する活動を通して、健康観察は学校生活全体を通して全職員で行う活動であることを理解する」とした。まず、自分自身とグループ内の健康観察を

行い、健康状態を予想したり判断したりする根拠について問題提起した上で、文部科学省の資料「体・行動・態度・対人関係に現れるサイン」の内容<sup>1)</sup>を紹介した。続いて一日の生活を想定させ、授業時間や休憩、給食時間等様々な場面における具体的な観察の視点を想定させた。また、学校と家庭との連携による連続的な観察の必要性についても気付かせた。

2回目（通算4回目）：目標を、「朝の健康観察場面のロールプレイや健康観察表の集計活動を通して、健康観察の意義や課題、それぞれの立場の重要性に気付く」こととした。まず、8人グループで担任役と子ども役を決め、3種類（①ひとりひとりを呼称し、「はい、元気です」とか「だるいです」などと応える、②「今日調子が悪い人はいませんか」と声をかけ、不調者は挙手して様子を伝える、③「班で健康観察して報告して下さい」と指示する）の方法で健康観察を行った。健康観察表は欠席や遅刻の状況、欠席理由が記載したものを使用し、子ども役は頭痛など例示している役割を演じ、担任役は、前日までの記録がある健康観察表をもとに健康観察を行い、当日の結果を書き込むようにした。そして、それぞれの役を演じた感想や、方法ごとのメリットとデメリットを話し合わせた。次に、感染症の集団発生を予想してほしい記入例を示した健康観察表を提示し、何を読み取りどのように活用するかについて理解させた。最後に、各クラスから提出された健康観察表を集約して分析し、全校の健康状態を把握する養護教諭の役割を知らせた。

3回目（通算5回目）：目標を、「健康観察に関わる養護実践から養護教諭の役割を理解する」こととし、現職養護教諭を実地指導講師として招いた。まず、B市小学校の担任、養護教諭、児童を対象とした健康観察に関する意識や実施状況の実態と課題<sup>19)</sup>を伝えた。その内容は、担任は健康観察は心身の早期発見に役立ち、いつもと違う発見をした時は体調や生活の様子

表1 養護学概論Ⅱの内容

1	養護教諭の職務と役割
2	保健室経営
3	健康観察①意義と目的
4	健康観察②朝の健康観察
5	健康観察③健康観察と養護実践
6	健康観察④健康相談、保健指導へ
7	健康診断①意義と目的
8	健康診断②学校で行う健診項目
9	健康診断③学校医による健診項目
10	健康診断④事後措置
11	保健教育①意義と目的
12	保健教育②保健だより・掲示
13	組織活動①学校保健委員会
14	組織活動②児童生徒保健委員会
15	実践と研究

について尋ねる(80%)が, 体に触れてまでの対応はあまりされていない(40%)という実態であった。次に, 児童は体調を担当に伝えることができる(76%)が, 伝えられない理由は言いにくさや面倒さであるという結果であった。養護教諭は健康観察結果の集計は欠席だけ(50%), 集計結果を管理職に回覧する(50%)など, 実施率は約半数であった。そして, 養護教諭は課題として, 教職員の理解の浸透, 集計時刻の徹底, 結果に基づく対応の充実, 健康観察の進め方の改善, 校内体制の充実などを上げていたというものであった。

このような実態から, 現職養護教諭の実地指導講師が行った課題を整理, 課題解決の計画と実施(健康観察の理解や活用をすすめるための学級指導, 職員研修, 学校保健委員会などの取り組み)状況を映像で用いて紹介するという内容であった。

4回目(通算6回目): 目標を, 「心の健康問題への対応事例を通して, 健康観察が保健室における健康相談や保健指導に展開するための養護教諭の役割を理解する」こととした。事例は「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」<sup>1)</sup>第5章に掲載されている「代表的な精神疾患とてんかん」13件, 「発達障害とその関連障害等」14件, 「虐待と性被害」4件から一事例を選択させた。そして事例に関わった人々の気づきと対応, 疾患や障害の特徴, 養護教諭が果たした役割について記述したレポートを作成して授業に持参し, グループ内で報告させた。なお, これらの事例の校種別は, 小学校12件, 中学校9件, 高校10件であり, それぞれの事例における概略, 対応と経過, まとめ, そして養護教諭の関わりが記述されている。

## 2. 調査項目

調査は, 健康観察の授業前後(授業前の1回目と授業後の4回目), そして2回目, 3回目, 4回目の各授業後に行った。授業前後の調査は調査項目と自由記述で行った。また, 使用した項目は, 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」<sup>1)</sup>を参考に作成した20項目である。目的に関する3項目(健康問題の早期発見・早期対応, 集団発生状況の把握や予防, 自己管理能力の育成), 視点に関する3項目(身体, 行動や態度, 対人関係), 機会・場所・実施者に関する3項目(一日の学校生活, あらゆる場所, 全職員), 評価に関する2項目(実態による見直し, 季節や行事による配慮), 朝の健康観察と養護教諭の役割に関する5項目(担任中心に実施, 養護教諭による全校の把握, 管理職への報告・連絡, 学校医等への連絡, 保護者への連絡), 活用に関する4項目(いじめ等の早期発見, 個人や集団の健康課題の発見, 健康相談や保健指導へつなげる, 教職員への発信)とした。学生の健康観察への認識は5件法(「よく知っている(5点)」から「全く知らない(1点)」まで)で調査した。また, 自由記述は, 4回の授業で得た学びや意見, 今後の自己課題であった。

2回目と3回目, 4回目の授業後にも, 振り返りシートに授業で得た学びや意見について自由記述で記入させ, 提出を依頼した。

## 3. 分析方法

質問紙調査のうち, 20項目の研修前後における平均得点の比較は, 対応のあるt検定を用

いて検討した。それぞれの有意水準を5%とし、解析にはSPSS ver.18を使用した。また、授業後に記入、提出された学生の学びや意見、今後の自己課題等の自由記述にはKJ法を用い、独断を回避するために研究者と現職養護教諭各1名で内容分析を行った。自由記述から学生の健康観察について学びや意見、今後の自己課題と考えられる箇所を抽出してコード化し、類似する内容をまとめ下位カテゴリ〔 〕で示し、さらに、上位カテゴリ【 】としてまとめた。

#### 4. 倫理的配慮

学生には、研究目的および回答内容を本研究以外の用途には使用せず、個人名を除くデータのみを複製して分析すること、分析後はシュレッダーで処理すること、個人データの漏出はないこと、評価に反映するなど不利益にならないこと、調査への協力は自由意志であること等を口頭で説明し、同意を得た。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 分析対象者の基本属性

分析対象は、履修者42名中、全ての授業に参加しかつ調査用紙に回答があった40名の学生で、全員1年生の女子であった。

#### 2. 授業前後における学生の認識の変化

##### 1) 4回の授業前後の認識の変化

健康観察に関する学生の認識の平均得点と授業前後の比較を表2に示した。20項目中4点台が2項目、3点台と4点台がそれぞれ9項目で、授業前の得点が最も高かったのは「健康状態のサイン」に関する2項目で4点台であった。健康状態は、身体、行動や態度に現れることを認識しているといえる。次いで得点が高かった項目は、「心身の健康問題の早期発見・早期対応」、「朝の健康観察は、担任を中心に適切に行う」であった。一方、授業前の得点が最も低かったのは、健康観察の「機会・場所・実施者」に関する認識の3項目であった。また、「目的」の中で、自分や他人の健康に興味や関心をもたせ、自己管理能力を育てる活動であるという認識も2点台であった。「一日の学校生活を通して」「あらゆる場所で」「全職員」で行っている事に対する認識は特に低く、健康観察は、朝、担任が行う活動と捉えていると考えられた。

4回の授業後の回答では、20項目全ての平均得点が授業前より向上し4点台であった。授業後の回答で得点が最も高かった項目は「朝の健康観察結果は養護教諭が集計し、全校の状態を把握する」であった。続いて、身体、行動、対人関係に表出する「健康状態のサイン」についての項目や、「健康観察結果を健康相談や保健指導につなげる」「養護教諭は教職員に働きかける役割がある」など活用に関する項目も高い得点であった。授業前後の比較においては、平均得点が授業前より低い項目は皆無であり、16項目において有意差がみられた。

表2 授業前後における健康観察に関する認識の変化 n=40

		授業前		授業後		前後差
		M	(SD)	M	(SD)	
目的	健康観察は、子どもの心身の健康問題の早期発見・早期対応が目的である。	3.69	(.87)	4.62	(.49)	※
	健康観察は、感染症や食中毒の集団発生状況の把握や予防が目的である。	3.29	(.97)	4.4	(.63)	※
	健康観察は、子どもに自分や他人の健康に興味や関心をもたせ、自己管理能力を育てる目的がある。	2.62	(.99)	4.02	(.81)	n.s
視点	健康状態のサインは、身体に表れる。	4.02	(.72)	4.64	(.49)	※※
	健康状態のサインは、行動や態度に表れる。	4.05	(.73)	4.64	(.49)	※※
	健康状態のサインは、対人関係に表れる。	3.48	(.92)	4.55	(.59)	※※
機会・場所・実施者	健康観察は、子どもの登校から下校まで、一日の学校生活を通してあらゆる機会に行う。	2.45	(.94)	4.19	(.74)	※※
	健康観察は、学校のあらゆる場所で行う。	2.14	(.78)	4.1	(.79)	※※
	健康観察は、学校の全職員で行う。	2.36	(.85)	4.12	(.80)	n.s
評価	健康観察の視点や項目は、学校の実態や子どもの実態によって見直す必要がある。	2.67	(.98)	4.14	(.68)	※※※
	健康観察の視点や項目は、季節や行事によって配慮する必要がある。	3.19	(1.15)	4.29	(.74)	※※
朝の健康観察の流れ	朝の健康観察は、担任を中心に適切に行う必要がある。	3.6	(1.04)	4.43	(.59)	n.s
	朝の健康観察結果は養護教諭が集計し、全校の状態を把握する。	3.36	(1.28)	4.69	(.47)	※※
	朝の健康観察結果は養護教諭が校長等教職員に報告・連絡する。	2.83	(1.25)	4.38	(.66)	※※
	朝の健康観察結果、必要があれば養護教諭が学校医・医療機関等に連絡する。	2.98	(1.18)	4.4	(.54)	n.s
	朝の健康観察結果、必要があれば養護教諭も保護者に連絡する。	3.17	(1.15)	4.38	(.58)	※
活用	健康観察の記録を、いじめ、不登校傾向、虐待等の早期発見に役立てる。	2.88	(.92)	4.29	(.69)	※
	健康観察の記録から、個人や集団の健康課題を発見する。	3.02	(.87)	4.48	(.59)	※
	健康観察結果を健康相談や保健指導につなげる。	3.02	(1.00)	4.52	(.59)	※
	養護教諭は教職員に働きかける役割がある。	2.86	(1.00)	4.52	(.55)	※

※※※：p&lt;.001 ※※：p&lt;.01 ※：p&lt;.05 ns：有意差なし

## 2) 4回の授業を通しての学び

4回の授業後の学生の記述を整理した結果を表3に示した。その結果、【展望】【目的・意義】【健康観察実施の視点】【機会・場所・実施者】【養護教諭の役割】の上位カテゴリと12の下位カテゴリで構成されると考えられた。【展望】は「今後の立場」「これまでの立場」で構成されており、「子どもが興味を持てる健康観察になるよう工夫していきたい」「重要だとは思っていたが、先生からの説明を受けた記憶がない」などと述べていた。【目的・意義】は、「心身の健康問題の早期発見」「個人と集団レベルの健康状態の把握」「法律的裏づけ」で構成され、「生徒の無意識のサインに気づくことのできるとても大切な情報源である」「学校全体の健康問題に関わる大事なものである」などが述べられていた。【健康観察実施の視点】は、「普段との違いへの気づき」「体・行動・態度、対人関係に表れる身体と心のサイン」で構成され、「朝の健康観察だけでなく、普段から様々な場所や機会に子どもの様子を見ておくことが大

表3 4回の授業で学んだことの内容分析 n=40

上位カテゴリ	n	下位カテゴリ	n	具体的記述内容例
展 望	22	今後の立場	12	子どもが興味を持てる健康観察になるよう工夫していきたい。 よりよい健康観察に何が求められるかを今後、考えていく必要がある。
		これまでの立場	10	重要だとは思っていたが、先生からの説明を受けた記憶がない。 今までずっと受ける側だったので、重要性やそれがどう役立っているかなど全く分かっていなかった。
目的・意義	14	心身の健康問題の早期発見	7	生徒の無意識のサインに気づくことのできるとても大切な情報源である。 早期発見は早期対応や指導に繋がるため、問題解決にとっても重要である。
		個人と集団レベルの健康状態の把握	6	子どもの様々な家庭・健康問題に気付く上で、とても大切なものだと気付いた。 学校全体の健康問題に関わる大事なものである。 集計に時間がかかるという問題があることを知った。
		法律的裏づけ	1	健康観察に関する法律があることに驚いた。
健康観察実施の視点	13	普段との違いへの気づき	8	朝の健康観察だけでなく、普段から様々な場所や機会に子どもの様子を見ておくことが大切である。 訴えた時だけでなく、常に観察して気にかけていなければ気づけないようなことがたくさんあると思った。
		体・行動・態度・対人関係に表れる身体と心のサイン	5	子どものサインにすぐに気づけるように、周囲の人間が常に視ておくことがとても大切であり、早期回復につながる。 生徒の口から聞くことだけでなく、体や、表情などの変化にも気づくことが重要である。
機会・場所・実施者	13	実施者	14	担任は毎日凄い仕事をしていることがわかった。 担任や養護教諭、管理職、学校医、保護者など様々な人が子どもの健康問題について協力・連携して解決していることがわかった。
		機会・場所	2	健康観察は、朝だけでなく学校生活を通して子どもたちの変化に気づかせてくれるなくてはならないものだ。 健康観察一つで子どもの状況を把握する情報がたくさんあることが分かった。
養護教諭の役割	9	コーディネーターの役割	6	養護教諭は健康観察の結果から一人ひとり児童・生徒の健康を知り、その子に関わりのある人へ支援の相談を持ちかけ、連携をとる中心人物にならなければいけない。 養護教諭は、支援に向けて担任や学校医、保護者や医療機関、専門機関とのパイプ役であることを理解することができた。
		全校の実態把握と情報発信	2	健康観察の結果を養護教諭が集計し、校長教職員に連絡していることを初めて知った。
		リーダーの役割	1	健康観察は、学校保健の推進のためにとっても大切なことだとわかった。

切である」「生徒の口から聞くことだけでなく、体や、表情などの変化にも気づくことが重要」などと述べていた。また、健康観察を行う【機会・場所・実施者】については、[実施者] [機会・場所]で構成されており、「担任は毎日凄い仕事をしていることがわかった」「健康観察は、朝だけでなく学校生活を通して子どもたちの変化に気づかせてくれるなくてはならないもの」などの記述があった。【養護教諭の役割】は、[コーディネーターの役割] [全校の実態把握



握と情報発信」[リーダーの役割]で構成されており、「養護教諭は健康観察の結果から一人ひとり児童・生徒の健康を知り、その子に関わりのある人へ支援の相談を持ちかけ、連携をとる中心人物にならなければいけない」「健康観察は、学校保健の推進のためにとっても大切なことだとわかった」などの記述が見られた。

### 3. ロールプレイや事例を用いた授業での学び

#### 1) 2回目の授業 - ロールプレイを通して朝の健康観察を考える -

授業後の学生の記述は整理して表4に示した。記述内容は【ロールプレイによる気づき】、【担任の役割】【養護教諭の役割】【観察方法の工夫と課題】【目的的理解】の上位カテゴリと、14の下位カテゴリで構成された。

表4 朝の健康観察についての学びに関する内容分析 n=40

上位カテゴリ	n	下位カテゴリ	n	具体的記述内容例
ロールプレイによる気づき	52	体験的な学習の効果	32	ロールプレイで、複数の方法を、実感を伴いながら体験することができた。 担任役や子ども役をしてみても、実施方法によるメリットやデメリットがわかった。
		子どものサインと対応の留意点	11	子どもが表出する具体的なサインが分かった。 子どものサインに気付くには、多くの面からの対応が必要である。
		教育活動の基盤となる活動	9	やるとやらないとでは全く違うと感じた。 毎日の習慣だと思っていたが、重要な意義だとわかった。
担任の役割	50	観察の視点	21	顔色、声のトーンなど色んな情報が入ってくる。 小さな変化も見逃さないようにしたい。
		対応	13	言いつらそうな子どもに声かけしたり気にかけてすることが大事。 コミュニケーションを取りながら相手を気遣うことが重要。
		学級経営力	11	健康観察は学級経営の基盤である。 心身の状態をの把握し、いじめや虐待を防げると思う。
		子ども同士の関係づくり	5	自分の体調を伝えることができるクラスの雰囲気作り。 子ども同士で知っておくと助け合える。
観察方法の工夫と課題	47	望ましい方法	25	呼称し、顔を見て一声かけたい。 状況に合わせて実施方法を変える。
		課題	22	重要さと時間(効率)のどちらを取るか課題。 不調を言いだしやすい環境作り。
養護教諭の役割	15	学校全体での実施の推進	10	全職員で観察の視点を理解するべき。 連携を取り、多くの眼で日常の様子を把握するようにする。
		全校の状況の把握	5	観察記録と実際の観察で、全校の子どもを把握する。 長年の継続的な観察は有効なデータになる。
目的的理解	12	健康問題の早期発見・早期対応	5	子どもと教師がしっかり向き合うために大事な活動。 症状から心理面の不調も分かることを知った。
		自己管理能力の育成	5	自分自身気付かせるところに大きな意義がある。 毎日する事で自己管理能力の育成になる。
		感染症の把握	2	感染症の予測も可能だと思った。 集団の様子の把握や予防意識を高める指導が必要。

【ロールプレイによる気づき】は〔体験的な学習の効果〕〔子どものサインと対応の留意点〕〔教育活動の基盤となる活動〕の下位カテゴリで構成され、「ロールプレイで、複数の方法を、実感を伴いながら体験することでできた」「担任役や子ども役をしてみて、実施方法によるメリットやデメリットがわかった」など感じていた。【担任の役割】は、〔観察の視点〕〔対応〕〔学級経営力〕〔子ども同士の関係づくり〕の下位カテゴリで構成され、「平常時の子どもを注意深く見ておく」「言いつらそうな子どもに声かけしたり気にかけてたりすることが大事」「自分の体調を伝えることができるクラスの雰囲気作り」などが述べられていた。【観察方法の工夫と課題】では、〔望ましい方法〕〔課題〕の下位カテゴリで構成され、「呼称し、顔を見て一声かけたい」「重要さと時間（効率）のどちらを取るか課題」などが述べられていた。【養護教諭の役割】は、〔学校全体での実施の推進〕〔全校の状況の把握〕の下位カテゴリで構成され、「全職員で観察の視点を理解するべき」「観察記録と実際の観察で、全校の子どもを把握する」などが述べられていた。【目的の理解】では〔健康問題の早期発見・早期対応〕〔自己管理能力の育成〕〔感染症の把握〕の下位カテゴリで構成され、「子どもと教師がしっかり向き合うために大事な活動」「自分自身気の状態に付かせるところに大きな意義がある」「感染症の予測も可能だと思った」などの記述が見られた。

## 2) 4回目の授業 - 事例を通して、健康観察の展開と養護教諭の役割を考える -

学生が選択した事例は「代表的な精神疾患（拒食症、双極性障害等）とてんかん」28件、「発達障害とその関連障害等（アスペルガー症候群等）」4件、「虐待と性被害（性的暴力、身体的虐待等）」5件であり、校種別にみると小学校5件、中学校16件、高校16件であった。事例に関わった人の気づきや対応、疾患や障害の特徴について授業前に自己学習したレポート内容の交流後、振り返りシートに記述した養護教諭が果たした役割について表5に示した。記述内容は、【対象者の把握】【支援方針や方法の検討】【組織的な対応】【問題の背景の把握】の上位カテゴリと10の下位カテゴリで構成された。【対象者の把握】は〔担任から情報収集〕〔養護教諭が行う日常的な心身の健康状態の把握〕〔相談しやすい保健室の環境づくり〕の下位カテゴリで構成され、「担任からの相談や報告に対応する」「保健室来室時は心身のダメージを見落とさないように、丁寧に対応する」ことで情報収集し、対応者が把握できることが述べられていた。次に【支援方針や方法の検討】では〔受診等の必要性の有無を判断〕し〔個別の教育支援計画作成への参画〕を行い〔医学的な情報を教職員に提供する〕など「受診の必要性のアセスメントと受診へのつなぎ役」「支援チームを形成し、それぞれの役割を検討する」などの役割をもつと捉えていた。【組織的な対応】では〔校内外関係者との連携調整〕役や〔組織対応の中核〕として「専門機関と学校間の情報伝達役、連携役、支援役を担う」「学校内で連携する筋道をつける」役割を担うなどと記述していた。【問題の背景の把握】は〔医学的要因〕〔心理社会的要因〕の下位カテゴリで構成されており、「健康診断結果を活用する」「一人ひとりに目を向けて観察や対応をする」ことなどを役割として捉えていた。

なお、3回目の授業後の学びの分析については、養護実践内容の検討も含めて別に報告し

た<sup>20)</sup>。

表5 事例から学んだ健康観察における養護教諭の役割の内容分析 n=40

上位カテゴリ	n	下位カテゴリ	n	具体的記述内容例
対象者の把握	36	担任からの情報収集	16	担任からの相談や報告に対応する。 健康観察結果を活用する。
		養護教諭が行う日常的な心身の健康状態の把握	12	保健室来室時は心身のダメージを見落とさないよう、丁寧に対応する。 子どもの健康状態を継続的に把握し、支援が必要な子どもにも早期に気付く。
		相談しやすい保健室の環境づくり	8	子どもにとって心を開き相談できる存在である。 相談しやすい空間や雰囲気作りをする。
支援方針や方法の検討	30	受診等の必要性の有無の判断	13	受診の必要性のアセスメントと受診までのつなぎ役をする。 学校医に相談したり、情報をもらったりする。
		個別の教育支援計画作成への参画	11	支援チームを形成し、それぞれの役割を検討する。 専門機関との連携の中心となる。
		医学的な情報の教職員等への提供	6	校内で専門的な情報を提供をしたり、専門的な立場からのサポートをする。 子どもの受診状態を確認する。
組織的な対応	28	校内外関係者との連携調整	22	専門機関と学校間の情報伝達役、連携役、支援役を担う。 健康問題対応の中心的役割を担う。
		組織対応の中核	3	学校内で連携する筋道をつける。 管理職に相談したり、管理職と連携する。
問題の背景の把握	13	医学的要因	11	健康診断結果を活用する。 来室記録結果の特徴から気付く。
		心理社会的要因	2	一人ひとりに目を向けて観察や対応をする。 子どもとの面談や指導を行う。

#### IV. 考察

##### 1. 授業前後における学生の認識の変化

授業前の学生の回答は先行研究<sup>16)</sup>同様、小学校から高校卒業までの経験と考えられた。健康状態は身体や行動・態度に表出することに対する一定の認識はあると思われたが、健康観察の意義や目的に関する教育はこれまでに受けた経験がほとんどないことが予想された。しかし、4回の授業後は健康観察の目的や実施の際の視点、機会・場所・実施者、評価から活用にまで認識が広がり、担任から得た情報を全校的視野で活かしていく養護教諭の役割も理解していた。

例えば、学校での教科指導においても生徒指導においてもその他のどのような教育活動においても、教育実践が成果を上げるための大前提の一つは児童生徒理解である<sup>20)</sup>。生徒指導提要では、児童生徒の個別的理解の促進のためには、一人一人について心身の健康状態を丁寧に観察することが求められ、朝の健康観察を始めとし、日常的な観察の機会や場所が示されている<sup>21)</sup>。また、観察の際には、言語的側面ばかりでなく非言語的側面、社会的側面、情緒的側面について観察する視点や、身体的健康だけでなくメンタルヘルスの視点も持ってかわりの場に望むことの必要性も述べられている<sup>21)</sup>。学生は、健康観察は教育活動の前提とな

る児童生徒の状態を理解する方法の一つであることと、養護教諭は的確な健康観察を実施できるよう働きかける立場として捉えようとしていることが推察された。

また、学生は、4回の授業を通して健康観察の重要性や目的の理解、健康観察の視点や方法、心身の健康に関する健康観察の視点や対応のあり方について理解を深めていると思われた。特に担任の役割については、健康観察はすべての子どもと個別に対面し、その日の状況を把握できる場として捉えることができ、学級に対する所属感と居場所としての意識を高める機会として学級経営の柱に据えるべき活動と理解したと思われる。また、ロールプレイングや事例検討は、健康観察の時間が集団の中で見落としがちな消極的な子どもや元気のない子どもと会話するきっかけになり、気になる子どもを理解するために養護教諭や他教員と連携したり遅滞なく健康相談や保健指導に展開したりすることを理解する上で役だったと推察された。

しかし、現状では教員養成において健康観察や保健指導などについて学べるような科目を開講したり必修で履修させたりしている課程認定大学は少なく<sup>22)</sup>、教育実習先の学校においても実際に朝の健康観察に参加している学生はわずかである<sup>23)</sup>。したがって、健康観察を学校で十分機能させるためには養護教諭の立場や役割が期待されている。「今、現実には、養護教諭として存在する人そのものが、学生に立ち、語ることの意味は大きい」<sup>24)</sup>と大谷が述べているように、養護教諭の実践に触れる機会をもつことにより、健康観察が学校における教育活動を円滑に進めるために行う重要な活動であることや養護教諭の役割のイメージ形成の一助になったと考えられた。

## 2. ロールプレイや事例を用いた授業での学び

大学の授業では、子どもが目の前にいないという限界もあり体験的に行うのは難しいが、学生が担任役になったり子ども役を担ったりというロールプレイを試みることはできる。朝の健康観察場面のロールプレイでは、学生が担任として演じる際、声色、雰囲気、スピード、言葉かけの内容などを意識的に設定することで、子ども役がどのように感じるかフィードバックすることができた。子ども役の中には、不調を感じていても言い出しにくい状況を演技した学生もあり、担任と対面しながら呼称してもらう安心感や、体調を気遣うひと言から関係性が育つ体験、学級全員の中で自己開示する困難さ、学級の雰囲気や担任の声のトーンなどで自己開示のしやすさが一変すること、呼称は時間がかかることなども体験していた。また、朝の会等の一定の時間だけで子どもを観察するのは限界があり、継続した日常的な観察や記録用紙を用いるなど共有しやすさを考慮することの大切さを実感したと思われる。講義を聴くだけでなく自らが少しでも体験することで具体的なイメージを膨らませることができ、健康観察に関する問題をより広い視野で捉えたり、改善方法を構想したりしやすくなる<sup>25)</sup>のでないだろうか。朝の健康観察は、担任による的確な実施が基盤である。ところが、担任を目指す学生の健康観察に関する学びについては、9割以上が健康観察についての大学講義を受けていなかったり、教育実習後も「健康観察」という言葉を聞いたことがない学生

がいたりするなど、現在の大学での講義内容が健康観察の理解等について成果をあげているとは言い難い状況である。今回のロールプレイングが養護教諭志望の学生にとって担任の役割の重要性や困難な状況を理解する契機となったことから、改善に向けて協働していく際の有益な体験になったと考える。

次に、事例を通したグループ学習は、心の健康問題の背景を理解するきっかけとなったと思われる。事例から、学校ではどのようなサインが表出し、誰がどのような機会に観察し、誰とどのような対応をしたのかを読み取る中で、起点は多様な視点をもった観察による気づき、つまり心身の健康観察であるとの理解に至ったと思われた。入学直後の学生が認知している養護教諭の仕事の内容のひとつに「心のケア」があり、心身の悩みの相談に応じたり子どもにアドバイスやケアをしたりするとのイメージをもっている<sup>25)</sup>。しかし、本授業において「心のケア」に至る前段階として観察による気づきが重要であり、これこそが養護教諭の重要な役割であるの大切さを学んだことは非常に意義深いと考える。そして、養護教諭は子どもと個別のかかわりを持つだけでなく、担任が行う健康観察が教室と保健室を繋ぎ、養護教諭が行う健康相談や保健指導が効果的に展開するなど学校保健安全法第9条を具体的にイメージすることができたのではないだろうか。このように学生は、養護教諭は学校生活全体の児童生徒の心身の変化にいち早く気づき、組織で対応を行うために重要な役割をもつ職であることを主体的にとらえ始めたと思われた。

## V. 研究の限界と今後の課題

本研究は、一大学の一年生の養護教諭免許取得希望者を対象に調査を行った。養護学概論の4コマに限定した授業実践の評価であり、それ以外の他科目や教育内容の関連については触れていないため、評価の客観性については限界がある。教員同士の情報共有については、健康観察表や集計用紙などに改善を加えた情報共有しやすい記録用紙<sup>21)</sup>や校内研修会<sup>27)</sup>、他職種連携教育も含め今後の課題として捉えている。

## VI. まとめ

本研究では、1年生後期に開講した養護学概論Ⅱの授業において、健康観察をテーマとして4回の授業を行った。健康観察や健康観察に関わる養護教諭の役割について理解するために、ロールプレイを取り入れた朝の健康観察場面の体験や、現職養護教諭の現地指導講師による健康観察の現状と養護教諭実践に関する講義、さらに事例を通して健康観察が健康相談や保健指導に展開することを理解するなどの内容を授業に取り入れ、学生の学びを検討することを試みた。学生は、健康観察は教育活動の前提となる活動で、児童生徒の状態を早期に把握し、健康相談や保健指導に展開することができる活動あること、養護教諭は、健康観察の適切な実施と連携を推進する立場であることを理解していることが推察された。

参考文献

- 1) 文部科学省：教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応，2011
- 2) 文部科学省：中央教育審議会答申，子どもの心身の健康を守り，安全・安心を確保するために学校全体としての取り組みを進めるための方策について，2010
- 3) 芦川恵美：健康観察を架け橋とした健康相談・健康相談活動における連携と取り組み—中学校の事例から見えた養護教諭の学び—，日本健康相談活動学会誌，8 (1)，16-18，2013
- 4) 文部省：中等学校保健計画実施要領（試案），1949
- 5) 文部省：学校保健法および同法施行令等の施行にともなう実施基準について，1958
- 6) 文部科学省：保健体育審議会答申，生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について，1972
- 7) 鹿島クニ：健康観察の実際，学校保健研究，4 (11)，31-34，1962
- 8) 瀬端文子：健康観察の実際，学校保健研究，7 (2)，28-33，1965
- 9) 小倉学：健康観察の意義と方法について，学校保健研究，15 (11)，518-526，1973
- 10) 金田義直：学校における健康観察の一事例，学校保健研究，15 (11)，527-532，1973
- 11) 森田輝：健康観察の方法と実際，学校保健研究，15 (11) 533-537，1973
- 12) 高野陽：健康観察の基礎小児の微症状，特に心因性症状を中心に，学校保健研究，17 (10) 462-465，1975
- 13) 石井宗一，松下宏光：現場で健康観察は本当に役立っているか，学校保健研究，17 (10)，456-459，1975
- 14) 佐藤平四郎：健康観察の問題点現状批判，学校保健研究，17 (10)，460-461，1975
- 15) 中村久造，佐々木直亮：学校保健における健康観察についての検討，学校保健研究，21 (6)，284-291，1979
- 16) 鈴木薫，岡崎由美子：学生の健康観察に関するイメージ，日本養護教諭教育学会第21回学術集会抄録集，40-41，2013
- 17) 深見俊崇：教師・教師志望学生の実践イメージに関する研究動向と課題，大阪市立大学大学院文学研究科紀要，57，78-95，2006
- 18) HAWKEY, K : Images and the Pressure to Conform in Learning to Teach, Teaching and Teacher Education 12 99-108, 1996
- 19) 岡山県学校保健会養護教諭部会倉敷東ブロック：健康観察のすすめ方と課題に向けての実践，岡山県小学校養護教諭夏期研修会資料，1-47，2013
- 20) 鈴木薫，岡崎由美子：養護実践報告による学生の健康観察の学びに関する研究，就実教育実践研究，8，237-243，2015
- 21) 文部科学省：生徒指導提要，2010
- 22) 日本教育大学協会全国養護部門研究委員会：「養護教諭の養成教育と配置の充実をめざ

して」, 6-23, 2002

- 23) 後藤ひとみ, 小林美保子, 安田宗代: 教育実習後のアンケート調査から捉えた愛知教育大学学生の「健康観察」に関する学習課題, 愛知教育大学研究報告教育科学編60, 43-51, 2011
- 24) 大谷尚子: 養護教諭養成教育における実地指導講師による授業について—授業の意義と授業のあり方—, 茨城大学教育実践研究13, 167-182, 1994
- 25) 榊原禎宏: ワークショップ, 木岡一明編, ステップ・アップ学校組織マネジメント, 40-45, 第一法規, 2007
- 26) 鈴木薫, 頼本千恵子, 淵上克義: 学生の養護教諭の職務に関する認識の変化—コーディネーション行動や能力の必要性と職務に対するイメージ—, 就実教育実践研究, 6, 120-128, 2013
- 27) 日本学校保健会: 学校保健の現状と課題, 2013